

* * 2016年 5月改訂(第5版)

日本標準商品分類番号

* 2009年 9月改訂

87729

貯 法: 2~8℃保存(凍結不可)

使用期限: 直接の容器、外箱に表示(1年)

* 薬価収載	2009年 9月
販売開始 ^(注)	2009年 9月
再評価結果	1989年 9月

アレルギー検査薬

診断用皮内エキス 食品類(穀類、野菜類、果実類、その他)

注): 旧販売名として1964年 5月販売開始
(小麦粉、米、ソバ粉1963年 4月販売開始)

処方箋医薬品: 注意—医師等の処方箋により使用すること

* 分類	販 売 名	承認番号
穀 類	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」小麦粉 1:1,000	22100AMX01430000
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」米 1:1,000	22100AMX01431000
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」ソバ粉 1:1,000	22100AMX01432000
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」大麦 1:1,000	22100AMX01433000
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」トウモロコシ 1:1,000	22100AMX01434000
野菜類	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」エダマメ 1:1,000	22100AMX01435000
果実類	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」クリ 1:1,000	22100AMX01436000
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」ナシ 1:1,000	22100AMX01437000
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」バナナ 1:1,000	22100AMX01438000
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」リンゴ 1:1,000	22100AMX01439000
その他	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」イースト(パン種) 1:1,000	22100AMX01440000
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」トウフ 1:1,000	22100AMX01441000
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」ビール 1:1,000	22100AMX01442000

【組成・性状】

組 成	本剤は各々の原料から抽出し、透析法により得た特異的アレルギーを含む無菌生食塩溶液で、無菌操作法により調製し、原料重量に対して1,000倍液(1:1,000)である。
添 加 物	フェノール0.5%(w/v) 塩化ナトリウム0.9%(w/v)
性 色	無色~わずかに着色澄明
	pH 6.5~7.5
状 浸透圧比	約1(生食塩液に対する比)

【効能又は効果】

診断

アレルギー性疾患のアレルゲンの確認

【用法及び用量】

診断

通常本品0.02mLを皮内に注射し、15~30分後に発赤径20mm以上または膨疹径9mm以上を陽性と判定する。

* * * 【使用上の注意】

* * * 1. 重要な基本的注意

- * (1) ショック、アナフィラキシー等の発現を予測するため、十分な問診を行うこと。
- * (2) ショック、アナフィラキシー等の発現時に救急処置のとれる準備をしておくこと。
- (3) 投与後患者を安静の状態に保たせ、十分な観察を行うこと。
- * (4) 小児、高齢者及び神経質な患者では、まず原則として乱刺(ブリック)又は切皮(スクラッチ)法を試みながら皮内テストにうつることが望ましい。特に食餌性アレルギーエキス投与に際して注意すること。
- * (5) 正確な皮膚反応テストを行うため、皮膚反応テスト検査前日から抗ヒスタミン薬やメチエータ遊離抑制薬等の投与を中止すること。また、皮膚反応テストを実施する約1週間前から投与を中止することが望ましい薬剤があるので注意すること。
- (6) 反応が陰性を示したときでも、問診等から原因アレルギーとして特に疑われる場合には、日を改めて再検査することが望ましい。
- * (7) 原因アレルギーの特定に際しては、本剤による検査結果のみではなく、問診や特異的IgE抗体検査の結果も踏まえて総合的に判定すること。

果等も踏まえて総合的に判定すること。

* (8) 非選択的β遮断薬服用の患者への注意

検査のために本剤が投与されたときに、本剤による反応(アレルギー反応)が強くあらわれることがある。また、本剤によるアレルギー反応の処置のためにアドレナリンを投与したとき、アドレナリンの効果が通常の用量では十分発現しないことがある。

* * (9) 三環系抗うつ薬及びモノアミンオキシダーゼ阻害薬(MAOI)服用の患者への注意

本剤によるアレルギー反応の処置のためにアドレナリンを投与したとき、アドレナリンの効果が増強されることがある。

* * 2. 副作用

* * (1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー(頻度不明)
ショック、アナフィラキシーを起こすことがあるので、観察を十分に行い、くしゃみ、蕁麻疹、血管浮腫、不快感、口内異常感、喘鳴、耳鳴等の異常があらわれた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

観察を十分に行い、次のような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症	喘息発作の誘発、眼瞼又は口唇の浮腫、発疹、そう痒等

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、検査に際しては注意すること。

* * 4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

ヒスタミンは子宮筋収縮作用を有することが知られているので、妊娠中はヒスタミン遊離が考えられる広範な皮膚反応テストは避けること。

* * * 5. 適用上の注意

* (1) 投与時

別途販売の皮内反应用対照液(診断用アレルギー皮内エキス対照液「トリイ」)を同時に用いて反応を比較すること。

* * (2) 投与部位のアレルギー症状が数日持続する場合がある。

【包 装】

2mLバイアル

【文献請求先】

鳥居薬品株式会社 お客様相談室
〒103-8439 東京都中央区日本橋本町 3-4-1
TEL 0120-316-834
FAX 03-3231-6890

製 造
販 売 元



鳥居薬品株式会社
東京都中央区日本橋本町3-4-1